

ひろば

優良公民館紹介

第73回優良公民館(文部科学大臣表彰)

国東市熊毛地区公民館

熊毛地区公民館 館長 溝井 浩二



「人が集い 人が互いに助け合えば人が育つ」このスローガンのもと活動を続けてきた熊毛地区公民館は、発足して12年目を迎える国東市国見町の対象人口1,100人余りの小さな公民館分館である。本地区は、トンネルでつながれた4つの谷から形成され、その地形の特性から、公民館活動が地域をまたいでの交流の場となっている。活動推進委員には、今では多くの一般賛同者が参加し、4つの専門部に分かれて、企画から運営を行っている。



①運営部：花いっぱい運動は、季節の花を植えたプランターを、バス停留所・自治公民館・施設に設置している。また、家にこもりがちな高齢者のために、研修旅行・交通安全教室・認知症ケア教室・グラウンドゴルフ大会を毎年開催している。しめ縄教室、陶芸教室も担当している。

②文化部：熊毛地区公民館と言えば、「熊毛地区大演芸祭」である。地元の人による劇・歌・踊り、楽器演奏、園児や児童の創作劇、その他楽しいパフォーマンスを企画し、毎年350人を超える賑わいを見せている。

③体育部：熊毛小学校の運動会に併せて熊毛地区体育祭を開催し、児童の競技に混ぜて地区対抗競技、消防団や高齢者の種目なども入れて、地域一体の運動会になっている。更にミニバレーボール大会とグラウンドゴルフ大会は、他の公民館との交流大会を開催している。また、ウォーキングや市駅伝競走大会のチームづくりも担当している。

④健全育成部：熊毛小学校の文化祭である「熊毛つ子祭り」では、3世代ふれあいゲーム、昼食会、学年別の発表会参観は、数少ないふれあいの場である。また、「地産地消ちびっ子料理教室」は、地元の食材を持ち寄り、豚汁などを老人会長さん達と一緒に作っている。

公民館活動は、これまでほとんど見られなかった地域間交流を芽生えさせ、高齢者からは、働いただけだった人生にスポーツや演芸の楽しみが生まれ、「余った人生ではなく余すことなく人生を楽しむ」そんな声が聞かれるようになった。また、園児・児童が多くの活動メニューに参加し、感性豊かな人に成長してくれる気がしている。更には、公民館での団体活動の経験は、ボランティア精神を醸成し、地域おこしや地域での人づくりに寄与することにつながっている。

今回の栄えある文部科学大臣表彰に恥じない様、更に人的交流のできる組織づくり、広報誌のみに頼らない「声掛け」による人集めに努め、心の過疎にならないように、「3密は避けても、心の密は持ち続ける」を合言葉に頑張っている。



公民館関係職員研修会

※新型コロナウイルス感染症の拡大により中止

テーマ別研修会①

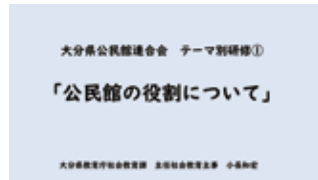
テーマ別研修会②



テーマ別研修会①

期 日 令和2年7月17日(金)～7月27日(月)
 研修形態 インターネットを活用した遠隔研修(オンデマンド方式)
 参加者 県内各地の公民館関係者(自治公民館を含む)及び
 社会教育関係者等 90名(アンケート提出数)

内 容



○研修1

講義 「公民館の役割について」

講師 大分県教育庁社会教育課

主任社会教育主事

小長 和宏 氏

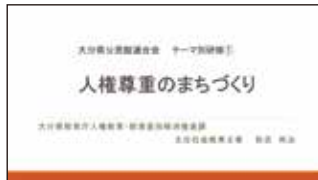
○研修2

講義 「人権尊重のまちづくり」

講師 大分県教育庁人権教育・部落差別解消推進課

主任社会教育主事

秋吉 邦治 氏



※研修1・2に係る「研修テキスト」が大分県公民館連合会ホームページで閲覧できます

参加者の声 (アンケートから)

- ・オンラインでの研修は、受講者のペースで学べることで、繰り返し視聴できることなど有用な点も多かった。
- ・コロナ禍での研修として、また、移動もなく職場で受講できるという点でもとても良いものであり、これまで受講機会を持てなかった人も参加できるようになる利点がある。
- ・オンラインであっても、双方のやりとりができる研修であると良いと感じた。
- ・オンライン研修は機器や通信環境を十分に備えておくことで効果を高めることができ、そうした環境整備が今後の課題である。

※その他の御意見は大分県公民館連合会ホームページ(公民館テーマ別研修会①アンケートまとめ)で閲覧できます。

テーマ別研修会②

期 日 令和2年9月4日(金)
 会 場 大分県立図書館 視聴覚ホール
 参加者 県内各地の公民館関係者(自治公民館を含む)及び
 社会教育関係者等 67名

内 容



○研修1

事例発表 「平成29年九州北部豪雨における公民館の対応」

発表者 日田市大鶴公民館

主事 高尾 徳昭 氏

○研修2

講義 「多様化・複雑化するリスクに地域はどう備えるべきか」

講師 大分大学減災・復興デザイン教育研究センター

センター長 小林 祐司 氏

参加者の声から

- ・コロナ禍の中での避難所運営を考える良い機会となった。平日頃から災害が起きたときのことをイメージしておくことが大切だと感じた。
- ・公民館の枠の中だけで考えるのではなく、広い視野が必要だと感じた。例えば、地域の防災士との連携は必要であり、すぐにも取り組むことができることである。
- ・「リスクを正しく認識せずに十分な防災対策を取ることとは不可能である」という言葉はまさしくその通りであり、地域の実情を踏まえた防災・減災対策を考えなければならぬ。

第71回大分県公民館研究大会 日出大会

期 日 令和2年10月20日(火)
会 場 日出町中央公民館、別速村地区教育会館

「公民館を拠点とした地域づくり」新しい時代の地域づくりと拠点としての役割」をテーマに日出町中央公民館をメイン会場として開催。コロナ禍の中、日程を短縮参加者数を制限して実施。

主催者あいさつ
大分県公民館連合会会長 中野 五郎 氏
来賓祝辞 日出町長 本田 博文 氏
表彰(県公連表彰・広報コンクール)

分科会概要

第1分科会「地域づくり」 テーマ「地域課題に対応した公民館活動の在り方」



公民館を拠点とした地域づくりを進めていくためには、公民館が積極的にかを仕掛けていかなければならないが、例えば現在の地域住民の課題や困りとは何であり、それに対してどのような仕掛けが必要でしょうか。

どの地域でも共通だと思いますが、少子高齢化や価値観の多様化などではないでしょうか。地域課題として、人口減少の危機意識を共有することで野菜作りを通じて地域づくりにつなげています。行政などの関係機関と連携していくことや地域のお年寄りを仲間に入れていくことが大切だと考えています。

〈助言者より〉

今後の公民館は、「誰もがちょっと寄ってみたい」となるような魅力ある公民館。自己向上の願いが叶う学びを大事にする公民館。「人づくり、地域づくり」に貢献できるリーダーが育つ公民館。二人の温かさや心遣いがにじみ、地域の絆を紡ぐ公民館。生涯学習社会の実現に向けて進んでいかなくてはなりません。また、施設・設備の老朽化や地域格差の拡大、参加者数の減少や参加者の固定化などの課題に取り組んでいくことも大切です。地域の課題は地域の数だけ存在し、それぞれの地域において適切な課題設定が求められます。そして、課題を設定する上で大切なのは、解決したくなるような課題を設定するという事です。既存の事業や年間計画を常に見つめ直し、一度決めたことを絶対視しない柔軟な対応力を持って課題に向き合うことが求められます。一足飛びに地域づくりを求めず、まずは人づくりです。そこから、つながりづくりへ発展し、それらが充実していくことで地域づくりに向かう力が培われていくのです。

第2分科会「教育の協働」 テーマ「教育の協働と地域教育力の向上の核となる公民館の在り方」



地域の大人たちの教育力を向上させるためにどのようなことに取り組んでいくべきでしょうか。大人たちが「面白い」と思うことがとても大切です。そのことが力となり、継続的な活動につながっていきます。面白さを子どもたちにどのように伝えればいいのか、どういう教え方をすれば子どもたちが喜んでくれるのか、大人たちが考えるようになっていくのです。

〈助言者より〉

発表にあつた小学校での和紙作りは、公民館を調整役として、和紙保存会と学校をつないでいます。行政と地域の両輪がうまくかみ合うことで子どもたちに地域のことを伝える場の設定ができています。学校の統廃合が進み、学校がなくなることでこのような地域の宝の継承が難しくなることが心配されます。各公民館において、それぞれの地域の宝を継承するために何ができるかを考え、実践していくことが大切です。

新学習指導要領には、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有する社会に開かれた教育課程の理念が謳われています。学校が育てたい子どもと地域が育てたい子どもが一致することがベストですが、その実現には双方の熟議が欠かせません。そのため、地域側の窓口として期待されるのが公民館ということになるのではないのでしょうか。現状、公民館が担うのが難しいところも少なくないと思われそうですが、地域の実情を把握し、社会教育のエッセンスを学校教育や地域に注ぎ込むことができるのも公民館だけであり、世の中の新たな動きを社会教育の新たな推進力として取り組んでいくことが求められているのではないのでしょうか。

第3分科会「人権・同和教育の推進」 テーマ「人権を尊重し、明るい社会づくりに資する公民館の在り方」



人権・同和教育を学ぶための講座等に参加を促すためにはどのような工夫が必要でしょうか。特に部落差別については、過去の歴史や偏見などに対する正しい学習が必要で、学校と連携することで児童・生徒への教育に取り組んだり、PTAを巻き込んでの学習の場づくりに取り組んだりすることが大切です。また、啓発と教育を両輪で進めることが大切であり、人権・部落差別担当課をはじめ他の部局とも連携していくことが求められます。

〈助言者より〉

昨年、人権に対する県民意識調査に合わせ実施した市民の意識調査結果を見ると、高齢者が部落差別問題を知るきっかけは「家族から聞いた」との回答が多いことがわかりました。このことは、学習機会の提供の重要性を示しており、その他にも子育て世代からは、「部落差別問題はもう存在していないので、研修の必要を感じない」との意見が寄せられました。

これまで学習したことがない人たちが、学習したことはあるが正しい認識が身につけていない人たちが、人権・同和教育を届けるべき対象は地域内にたくさんいるのだという認識を持ち、今後の取組に生かしていくことが大切です。

部落差別の解消を推進していかなくてはならない背景には「知識の欠如」や「人権感覚の欠如」があり、部落差別を考へることは他の人権課題を考へることに通じています。それぞれの市町村においては事業実施にあたり、ある程度ねらいを絞ることが大切なのではないかと感じています。大分県全体の課題としては、「参加者の固定化」があり、それを打破していくための効果的な取組を考へていかなくてはなりません。

「人権尊重のまち」とは、学ぶ人・考へる人が多いまちのことではないのでしょうか。人権について学び・考へる人が多く住むまちづくりに向けて取組を進めていかなくてはなりません。

第4分科会「自治公民館活動」 テーマ「豊かな地域づくりを担う自治公民館活動の在り方」



自治公民館を運営していく上での行政との関わりや地域の負担金はどういったようになっていきますか。運営費を行政から支出している場合は、運営団体がコミュニティ推進協議会を作り指定管理にし、民間で自由に運営しています。地域の負担金は地区ごとに異なっていますが、行政から指定管理料をもらうので、運営費に充てることはありません。

〈助言者より〉

玖珠町のコミュニティでは、行政と各コミュニティとがそれぞれアイデアを出しながら運営しています。特に森地区は、久留鳥水軍の流れをくむ歴史ある地域です。森藩の歴史などは公民館で学ばれています。行政では行き届かない部分を地域が担って来ています。行政では行き届かない部分や地域が担って来ています。行政では行き届かない部分や地域が担って来ています。行政では行き届かない部分や地域が担って来ています。

キーワードは3つあります。1つは関係人口です。地域に関わりのある人々を呼び込み、外部の人たちの協力を得て活動に活かしていくことが大事です。次に魅力づくりです。公民館活動の魅力や伝えられるように、伝えたいような活動にすることが継続的な活動に必要なことです。最後に、自治公民館の強みを再認識することです。地域内の学校にも学校運営協議会が設置され、地域の力を子どもたちの育成に活かそうとしています。地域を知る公民館関係者の力が求められています。

日田地区公民館連合会

日田地区公民館連合会は、日田市、玖珠町、九重町の公民館で組織され、公民館活動の振興発展に寄与することを目的に活動を行っている。

令和2年度はコロナ禍で、思うような活動ができない中、2つの課題に焦点をあて、令和2年12月1日に、くすまちメルサンホールで研修会を行った。

1. テーマ「災害時の公民館の対応」

講師：日田市大鶴公民館

高尾徳昭氏

近年、毎年のように頻発する集中豪雨や台風時に、避難所として開設される公民館の対応を、平成29年九州北部豪雨時の実体験を踏まえ、ご講演をいただいた。行政と地域住民が一体となり、災害に立ち向かう活動を聞き、災害時での自助・共助の重要性を再確認した。

2. テーマ「新しい時代における

公民館事業の在り方」

講師：大分県立図書館

学校地域支援課 鹿島嘉節氏

「公民館広報戦略・高齢化・コロナ禍における公民館活動」についてご講演いただいた。広報では、近年SNSによる発信等が主になっているが、対象者を絞り、対象者に合わせたツールを選択する広報戦略や、地域をつくるために、人づくりや人と人のつながりをつくることの必要



玖珠町教育委員会社会教育課

斎藤 大介

性などを学ぶことができた。2名の講師を迎え、公民館の活動や運営を行っていくうえで大変有意義な研修会となった。

次年度以降も、日田地区公民館連合会では、地域における現状や課題を共有し、公民館活動の一層の充実、振興に努めていきたいと考えている。

地区公連発

中津地区公民館連合会

中津地区公民館連合会は、中津市、豊後高田市、宇佐市の公民館相互の連携を図り、公民館活動の振興発展に寄与することを目的に、公民館関係職員の研修、情報交換、調査・研究等を行っている。令和元・2年度の調査・研究のメインテーマを「人生100年時代を見据えた公民館」、サブテーマを「人と人とのつながる場を創出する公民館活動」とし、人づくり、つながりづくり、地域づくりをめざす公民館活動のあり方や当面する諸課題の解決に向け、研究・協議を行ってきた。

令和2年度は、当面する諸課題を新型コロナウイルス感染症予防とし、7月29日に宇佐市院内文化交流ホールで、第1回社会教育研究会・公民館振興大会を開催し、「地域における防災拠点としての公民館と新型コロナウイルス感染症予防の対処」と題して、NPO法人レスキューサポート九州代表理事大分県防災アドバイザの木ノ下勝矢氏にご講演いただいた。

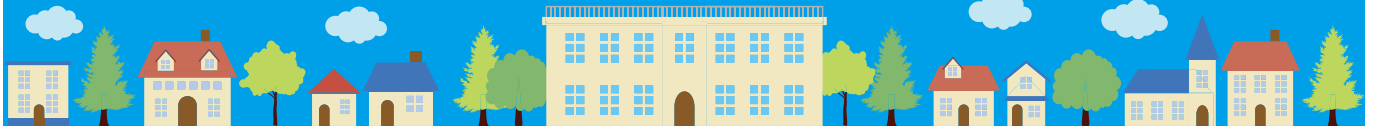
令和3年1月27日には、宇佐市安心院中央公民館で、第2回社会教育研究会を開催し、宇佐市の佐田地区公民館と長洲公民館から令和元・2年度テーマに沿った事例報告と意見交換を基に、研究・協議を進める方針であった。しかし、猛威を振る

中津地区公民館連合会

会長 御堂 了圓



わがまち公民館



大分市植田公民館 大分市植田公民館 館長 一法師 本治

植田地域は大分市の南西部に位置し、近年は様々な面で都市機能が集中した大分市の副都心となって来ている。令和2年12月末現在で38,012世帯81,973人が暮らし、公民館の年間利用団体数は約3000団体、利用者数も約10万人という状況にある。

公民館が主催する教室・講座は、子ども・女性・高齢者・成人対象の講座、あたたかい家庭づくり、豊かな地域づくりのための講座、パソコン教室など23を数え、市民一人ひとりがその生涯にわたり様々な機会において学習できるよう、幼児期から高齢期までの各期に応じた魅力ある学習の場の提供に努めている。今回は、当館の重点的な取組の1つとなっている家庭教育の支援と人権・同和教育の推進について紹介したい。

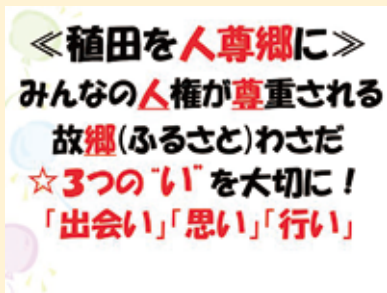


まず、家庭教育については乳幼児家庭教育学級を2クラス編成（天使の子育て・生後10カ月～2歳未満の乳幼児と保護者）、「すなっぴーきつず」2歳～3歳児と

保護者」とし、遊び等を通した親子のコミュニケーションづくりとともに保護者同士のつながりづくりもめざしている。また「子育て知得塾」と題し、毎回違う講師による子育て世代や子育て支援者向けの講座も実生活で大変役に立つと人気である。

次に、人権・同和教育については『わさだを人尊郷に』を合言葉に、「暮らしの中の人権講座」「人権・同和教育専門講座」や「わさだ人権フェスティバル」を中心に、人権問題に対する正しい認識と人権を自分事として捉えることで、人権意識の高揚を図っている。また、自治会の会合や地域のサロン等に出向いて学習機会の拡大にも努めている。

今後も、生涯学習社会に対応する取組を進める中で、生きがいのある人生の創造と心豊かで活力あふれる地域づくりの拠点としてあり続けたいと考えている。



豊後大野市中央公民館 豊後大野市中央公民館 公民館 主事 小野 剛志

豊後大野市には、現在、7つの公民館があり、そのうち中央公民館は、平成25年に完成した複合庁舎の2Fにある。様々な事業のうち、今回は青少年健全育成事業の1環として毎年実施している『中学校国際交流事業』を紹介したい。この事業は、将来を担う青少年が、異文化にふれることよって、広い視野と社会性、国際感覚を養い、将来の夢の実現への一助にするという目的で、平成6年に旧清川村で開始した。

市内の中学生と韓国機張郡の長安中学校と相互に2泊3日のホームステイを行うものである。初めての海外でのホームステイに参加生徒たちは緊張と不安の中、パートナー家族の熱心な歓待を受け、短い期間であるが濃厚な3日間を過ごすこととなる。その後、今度は日本で「感動の再開」をし、市内県内の名所を家族と



一緒に回ったり、片言のことばでコミュニケーションをしたりする。最後に、また会う日までのお別れをし、感動のフィナーレを迎えることとなる。

日韓両国の関係悪化により中止になることもあったが、20回の交流ができていることは、学校、地域及び家庭の協力があるからこそである。本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で休止しているが、いつかまた再始動できる日を心待ちにしている。

本市では、令和3年度より指定管理者制度が導入され、民間活力をばねにさらに飛躍していくことが期待されている。これからも地域の方々と連携を取りながら、地域のよきところとなり、ともに成長する公民館を目指していきたい。



第71回九州地区公民館研究大会 熊本大会(紙上開催)に参加して



令和2年8月27日(木)〜28日(金)開催予定の熊本大会が、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、紙上開催となった。追いつちをかけるように7月に豪雨災害が発生した。被災された皆様には、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

「開かれ、つながる社会教育の実現を目指す」〜地域コミュニティの維持と防災拠点としての役割を大会テーマとして開催された今回の大会は、熊本地震からの復興における公民館の役割について、経験者の方々から直接お話を聴ける貴重な機会だっただけに、現地での開催が中止となり、非常に残念である。

しかしながら、大会冊子の特集「復興祈念」熊本地震記憶の継承の、当事者達の記憶というインタビュー記事を讀み、被災者の皆さんが、復興に向けて地域とのつながりを強めていった姿こそ、公民館の目指すべき姿であり、普段から人のつながる場を提供できる公民館を目指していきたいと思った。

姫島村中央公民館

館長 岸本誠司



大会テーマを「開かれ、つながる社会教育の実現を目指す」〜地域コミュニティの維持と防災拠点としての役割」と掲げた本大会は、感染拡大防止のため紙上開催となった。

私は、大会冊子を読み、「災害にも強い」まちづくり拠点として、公民館にニーズが高まっていることを改めて感じた。

「災害にも強い」まちづくりをするためには、緊急時に助け合える地域づくりが必要であり、それを支える人づくりが必要である。しかしながら、現在、若年層のコミュニティ離れ、担い手の高齢化と後継者不足などの課題がある。そんな中でどうしたらつながりをつくる拠点となりえるか。その点で、公民館を身近に感じてもらう事業展開や、地域との連携の図り方についての本大会の具体的事例は参考になった。

コロナ禍で新たな課題も生まれている。今後も工夫しながら、人づくり・つながりづくり・地域づくりそして防災拠点としての公民館運営を考えていきたい。

大分市明治明野公民館

指導主事 黒木恭子

社会教育関連事業の取組ならびに社会教育施設の状況に関する調査報告から

政府による最初の緊急事態宣言中(4/16発令・5/25解除)やそれ以降の県内社会教育施設の状態等について県社会教育課が調査(令和2年9月)した結果から、以下、報告ならびに考察をしてみたいと思います。

緊急事態宣言中、調査対象となった県内512施設の多くが閉館し、公民館においても85%が閉館を余儀なくされました。コロナ禍の中、事業等の実施ができない状況に直面しました。そのような中、「オンライン利用」に注目が集まりました。

県公連の研修も一部をオンラインで実施してみました。寄せられたアンケートを分析すると(詳細は「大分県公民館連合会ホームページ」をご覧ください)、「やはり対面が良い」という意見とともに、「自分の都合の良いときに集中して学べた」や、「例年忙しくて参加できなかったがオンラインなら参加できた」などの意見も寄せられ、折しも、7月豪雨により県西部との交通が遮断された時期でもあり、オンラインの可能性が色濃く見えてくるものでした。

こうした新たな取組により、これまで見えてこなかった問題に気付かされる場合があります。その一つは公民館のオンライン対応への基盤整備の弱さです。通信環境に係る調査結果を左に示します。

【社会教育施設の通信環境について】

- ア 職員が使用するパソコン(タブレット含む)とインターネット接続環境がある
- イ 館内での無線接続環境がある

| | ア | イ |
|-----------------|--------|--------|
| 公民館(類似施設を含む) | 61.8% | 16.9% |
| 図書館(同種施設を含む) | 96.3% | 25.9% |
| 生涯学習センター | 100.0% | 100.0% |
| 青少年教育施設 | 55.6% | 11.1% |
| 博物館(相当施設を含む) | 61.1% | 16.7% |
| 視聴覚センター・ライブラリー | 33.3% | 0.0% |
| 社会体育施設 | 10.6% | 2.5% |
| 文化会館 | 85.7% | 57.1% |
| 教育集会所 | 0.0% | 0.0% |
| その他(上記に該当しない施設) | 22.2% | 11.1% |

今後は公民館職員のICTスキルの向上や、利用者にとって必要な基盤整備や求められるICTスキルはどのようなもので、公民館は何に取り組むべきなのかなどの課題への取組が求められるのではないのでしょうか。(県事務局)



地域力を高める 公民館活性化モデル事業の取組

由布市海老毛公民館

海老毛地区は、由布市挾間町にある26世帯81人という人口の少ない地域である。モデル事業1年目の令和元年度には、全4回の作戦会議を行い、地域住民が主体となり、行政・大学・民間有識者とともに地域資源や課題の洗い出しを行った。その協議をふまえて、2年目となる今年度は、地域住民が集まる交流の機会の創出や地域外の方を呼び込むようなイベントの開催に取り組みでいくこととした。

その足掛かりとして、4月には、公民館にある桜のお花見会から事業を開始する予定であったが、新型コロナウイルスの影響で開催を断念。なかなか思うように事業が進められない中で、再度地区役員が協議を行い、「①対策を講じながらできることを考えていく」「②まずは地域住民が集まるイベントから行ってみる」ということを決定した。

10月には、卓球大会を実施し、80代から高校生、子ども連れの家族を含めた15名が参加した。親子対決や異世代対決などを通じて、いい雰囲気地域内の交流を図ることができた。

また、2月には、スポーツイベントを実施し、子どもからシニア世代みんなが参加できるグラウンドゴルフやスポーツ吹き矢などを行い、楽しく体を動かし、交流することができた。



10月 卓球大会の様子



2月 スポーツイベントの様子
(スポーツ吹き矢)

コロナ禍での開催となったが、イベントの実施をおして予想以上の参加があり、外出を控えている状況の中で、地域住民の多くが人や地域とのつながりを大切に思ってくれていることを実感することができた。今後も規模が小さくても地域住民が楽しく集う機会をつくり、小さな地域ならではの地域力を高めていきたい。

九重町中央公民館

九重町では、青年世代の公民館利用を課題の一つと捉えており、今年度、青年世代をターゲットとした主催事業をいくつか開催した。本モデル事業では、「中学生のための防災リーダー研修」を、このえ緑陽中学校と玖珠美山高等学校、NPO法人ABC野外教育センターの協力を得て、11月と2月の2日間、開催することができた。

研修内容は、野外活動の体験と同時に、自然・災害からの命の守り方・スキルを高めていけるような内容を主に構成した。研修1回目は、①仲間づくりとチームづくり体験、②地域を散策しながらのマップづくり体験ワークショップ、③非常食の試食、④おおい防災VRの体験をしても良かった。参加してくれた9名の中学生からは、「防災散歩が楽しかった」、「身近な危険な箇所について改めて考え直すことができた」、「仲間づくりの活動は、知らない人同士の話のきっかけになり、とてもよかった」などの感想をいただいた。

今後は、中学生の研修の成果（防災マップ）を用いて、小学校における防災学習の内容に取り入れてもらうなど、小中高の連携を進める取り組みにつなげていきたいと考えている。また、SNSでの発信や、他世代にも見てもらえるよう、公民館・公民館事業での掲示等を計画している。



危険箇所を話し合う様子



防災散歩の様子

お知らせ

表彰

大分県公民館連合会表彰

【優良公民館表彰】

日出町大神地区公民館
豊後大野市中央公民館

【優良自治公民館表彰】

日出町八日市自治公民館

【優良職員表彰】

宇佐公民館 館長

宇佐市深見地区公民館 館長 南 文明 氏

宇佐市深見地区公民館 前社会教育指導員 林 禎紘 氏

国東市南安岐地区公民館 館長 安部 初美 氏

国東市南安岐地区公民館 公民館主事 中野 昭純 氏

【勤続職員表彰】

豊後高田市西都甲公民館 館長 河野 靖子 氏

宇佐市安心院中央公民館 前館長 平尾美和子 氏

国東市安岐地区公民館 公民館主事 東 幸光 氏

国東市西安岐地区公民館 公民館主事 林田 英二 氏

国東市富来地区公民館 公民館主事 片山みどり 氏

大分市東大分公民館 館長 石川 泰也 氏

日田市巾津江公民館 前館長 小野 行雄 氏

日田市五和公民館 前館長 笠原 浩 氏

日田市大鶴公民館 前館長 山口準一郎 氏

由布市湯平地区公民館公民館運営審議会委員 古長 弘美 氏

大分市坂ノ市公民館公民館運営審議会委員 藤田 英俊 氏

大分市大在公民館前公民館運営審議会委員 廣田 稔 氏

日田市桂林公民館公民館運営委員会会長 橋本 成人 氏
日田市天瀬公民館公民館運営委員会会長 高瀬 敏明 氏
日田市西有田公民館前公民館運営委員会会長 諫元 善明 氏

広報コンクール表彰

【公立公民館報の部】

佐伯市大入島地区公民館 「あまなつ」

【自治公民館報の部】

由布市古野自治公民館 「やせうま」
別府市中須賀東町公民館 「つくし」
別府市鶴見町公民館 「公民館だより」

【優良賞】

別府市乙原公民館 「乙原町広報誌 おとぼる」
別府市扇山公民館 「扇山通信」

【学習資料等の部(ポスター・チラシ等含む)】

別府市西野口町公民館 「クリスマス会」
別府市西野口町公民館 「KIDS 夕涼み会」
別府市西野口町公民館 「西野口町 盆踊り」

【優良賞】

別府市鶴見町公民館 「第21回鶴見町文化祭」
別府市朝見一丁目一區公民館 「春の文化行事 お花見会」

令和3年度 事業の予定

大分県公民館連合会関係

諸会議
会計監査
期日：4月8日(木)
会場：大分市(県庁舎)
内容：令和2年度会計監査

九州公民館連合会関係
第1回会長会
期日：4月15日(木)

第1回理事会
期日：4月22日(木)
会場：大分市(大分県立図書館)
議事：令和2年度事業報告、令和3年度事業計画等

第2回理事会
期日：5月27日(木)
会場：大分市(大分県立図書館)
議事：令和2年度事業報告、令和3年度事業計画等

第2回理事會
期日：7月29日(木)
会場：大分市(大分県立図書館)
議事：第72回大分県公民館研究大会、大分県公民館連合会表彰等

各地区公民館連合会
期日：随時
会場：県内5箇所

各地区公民館連合会
期日：随時
会場：県内5箇所

大分県公民館関係職員研修会
期日：5月27日(木)
会場：大分市(大分県立図書館)

大分県公民館テーマ別研修会①
期日：7月16日(金)
会場：大分市(大分県立図書館)

大分県公民館テーマ別研修会②
期日：9月10日(金)
会場：大分市(大分県立図書館)

第72回大分県公民館研究大会
期日：10月28日(木)
会場：由布市はさま未来館

大分県公民館連合会表彰
期日：10月28日(木)
会場：由布市はさま未来館

情報提供
機関誌「ひろば」発行
期日：2022年3月
ホームページによる情報提供
期日：随時

九州公民館連合会関係
第1回会長会
期日：4月15日(木)

会場：福岡県福岡市
議事：令和3年度九州公民館連合会役員案等
第1回理事会
期日：4月15日(木)
会場：福岡県福岡市
議事：令和2年度事業・決算・監査報告、令和3年度事業計画等

第2回会長会
期日：9月1日(水)
会場：福岡県福岡市
議事：第43回全国公民館研究集会・第72回九州地区公民館研究大会福岡大会等

第2回理事會
期日：9月1日(水)
会場：福岡県福岡市
議事：第43回全国公民館研究集会・第72回九州地区公民館研究大会福岡大会等

第2回理事會
期日：9月1日(水)
会場：福岡県福岡市
議事：第43回全国公民館研究集会・第72回九州地区公民館研究大会福岡大会等

第43回全国公民館研究集会・第72回九州地区公民館研究大会福岡大会
期日：9月2日(木)～3日(金)
会場：福岡県福岡市
大会テーマ：持続可能な地域づくりに向けた公民館活動の在り方

事務担当者会
期日：1月20日(木)
会場：鹿児島県鹿児島市
議事：令和3年度事業報告・決算見込、令和4年度事業計画・予算案等

公益社団法人全国公民館連合会関係
期日：6月4日(金)
会場：東京都
議事：令和2年度事業報告・決算報告等、令和3年度事業計画・予算案等

第43回全国公民館研究集会福岡大会
期日：9月2日(木)～3日(金)
会場：福岡県福岡市
全国公民館連合会表彰
期日：9月3日(金)
会場：福岡県福岡市

第33回全国公民館セミナー
期日：1月下旬
会場：東京都
※大分県公民館連合会から1名を推薦